

監修＝相馬市健康対策
専門部会委員、
相馬中央病院
坪倉正治
作成＝放射能対策室



放射線に関する Q & A

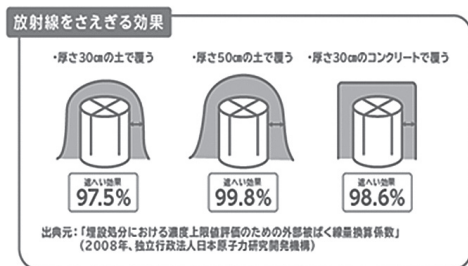
放射線は目に見えません。しかし正しく認識し、対処することで過剰な心配や、無用な被ばくを避けることができます。放射能対策室では定期的に、この Q & A を連載していきます。

Q1 今年も台風や大雨がありましたが、除染で出た廃棄物の保管に影響はないのでしょうか？

A1 市では中間貯蔵施設が完成するまでの間、除染で生じた廃棄物を、耐久性が高い大型土のう袋に入れて仮置場で全て保管しています（平成 28 年 10 月末時点で 66,468 袋保管中）。仮置場に搬入された除去土壌は、地下水への汚染防止のため、下部に遮水シートを設置し、上部に放射性物質に汚染されていない土を厚さ 30 cm 覆土し、さらに上から防水用の遮水シートなどで覆っています。これで除去土壌から出る放射線の 97% 以上が遮蔽されます。

光陽地区仮置場の管理は、定期的に場内 5 カ所の空間放射線量測定に加え、仮置場地下水の放射性物質濃度の測定を月に一度行っています。これまでに仮置場地下水から放射性物質が検出されたことはありません。また、光陽地区仮置場内の平成 28 年 10 月 31 日の空間線量は 0.05 ～ 0.10 μ Sv/h と、同日 8 時の光陽サッカー場の空間放射線量（0.12 μ Sv/h）と大きな違いはありません。

光陽地区では、仮置場周辺 13 カ所の空間線量を毎日測定しており、測定結果を市ホームページや広報そうま（15 日号）に掲載していますので是非ご覧ください。



Q2 年末年始は県外への旅行を考えています。原発周辺の高速度道路（常磐富岡～浪江間）を通過して健康に影響はありませんか？

A2 平成 27 年 1 月に国が実施した開通前の調査では、常磐富岡 I C から浪江 I C の間（14.3 km）を自動車（時速 70 km）で 1 回通行する際に運転手が受ける被ばく線量は、0.17 μ Sv と計測されています。これは、胸のレントゲン写真を 1 枚撮影する際の被ばく線量（1 回あたり 60 μ Sv）の約 340 分の 1 の量です。確かに、高速道路上では原発周囲の空間線量がやや高い場所を通過することにはなりますが、通過時間が非常に短いため、身体に受ける被ばく線量は少なくなります。たとえ自動車の事故や故障によって、車外に 1 時間待機しなければならないような場合であっても、被ばく線量は 6.4 μ Sv（胸部のレントゲンによる被ばく線量の約 10 分の 1 の量）程度です。

日本国内を飛行機で移動した際に受ける被ばく線量（約 2 ～ 4 μ Sv ※搭乗時間や飛行高度により値は変動します）と比較しても、車での移動の方が低い値であると考えられます。

もちろん、いくらでも被ばくしてよいという話では決してありませんが、常磐道の利用において体が受ける被ばく線量は、健康影響を考えるレベルよりも十分に低いです。

※常磐道における放射線の最新情報は、NEXCO 東日本のホームページ（URL：http://jobando.jp/）に公開されています。

出典：▽環境省「保管場所ってなんで必要なの？」

▽ネクスコ東日本ホームページ 原子力・エネルギー図面集 2013

●問い合わせ先 放射能対策室 ☎ 37-2270

自家消費野菜などの放射性物質測定結果

●10 月分

▽測定件数 測定件数 49 件
（内訳：野菜 19 件、果実 19 件、魚 2 件、その他 9 件）

▽基準値を超えた食品 0 件

●相馬市で出荷制限などを受けている食品（11 月 4 日現在）

▽くさそてつ（こごみ）▽たけのこ▽ふきのとう（野生）

▽ぜんまい▽たらの芽（野生）

▽原木しいたけ（露地）▽原木なめこ（露地）▽野生きのこ▽こしあぶら▽うど（野生）

▽牛（県の定める出荷・検査方針に基づくものを除く）

※最新の情報は、福島復興ステーションホームページ内の「農林水産物の緊急時環境放射線モニタリング結果【詳細】」で確認ください。

https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/portal/non-kekkai.html

（相馬市ホームページ）

http://www.city.soma.fukushima.jp/housyasen/index.html

●問い合わせ先 放射能対策室（☎ 37-2270）

●問い合わせ先 放射能対策室（☎ 37-2270）

●問い合わせ先 放射能対策室（☎ 37-2270）

●問い合わせ先 放射能対策室（☎ 37-2270）

●問い合わせ先 放射能対策室（☎ 37-2270）

●問い合わせ先 放射能対策室（☎ 37-2270）

●問い合わせ先 放射能対策室（☎ 37-2270）

●問い合わせ先 放射能対策室（☎ 37-2270）

●問い合わせ先 放射能対策室（☎ 37-2270）

●問い合わせ先 放射能対策室（☎ 37-2270）

●問い合わせ先 放射能対策室（☎ 37-2270）

●問い合わせ先 放射能対策室（☎ 37-2270）

●問い合わせ先 放射能対策室（☎ 37-2270）

●問い合わせ先 放射能対策室（☎ 37-2270）